

仙台陣屋かわら版

第六十四号

(平成二十二年六月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp

〒059-0921 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-851666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

「子どもの日企画」は大盛況。来年も来てね

GW中、まだ桜は咲いていませんでしたが、来館者が毎日百人を越えるなど、資料館は大変な賑わいをみせました。最終日の五月五日に行った「子どもの日企画」には、六十名以上の親子連れが参加。「絵本の読み聞かせ」や「甲冑の試着体験」、「折り紙で兜づくり」、「南部煎餅の手焼き体験」などの企画が行われました。友の会や白老地域文化研究会のみなさん、「抹茶でおもてなし」でいつもお世話になっている松岡裕子さんらにもご協力いただき、春らしい賑やかな催しとなりました。企画に参加したことも達からは、甲冑を



〈楽しく折り紙。上手にできたかな?〉

着ることができた喜びの声や、煎餅の型が「重たかった」といった感想が聞こえてきました。お力添え下さった皆さん、本当にありがとうございます。

ございました。今後とも、温かいご支援ご協力を、よろしくお願い致します。

もはやGW恒例の「子どもの日企画」ですが、毎年多くの方々に来ていただければと思っております。煎餅づくりや甲冑試着など、どれも貴重な体験となる内容ですので、来館の有無に拘らず、気楽に資料館まで足を運んでいただければ幸いです。大きめの甲冑もありますので、大人でも童心に帰って楽しめますよ！

地域文化大学の活動から

四月二十四日から、短刀三十振りを展示してきた企画展「日本刀の輝き〜短刀の魅力」が終了しました。元刀剣登録審査員の鳥羽達一郎さんや日本製鋼所室蘭製作所の刀匠 堀井胤匡さん、竹浦在住の横山敏夫さんなど、沢山の方々のご協力のおかげで、今年も無事に終えることができました。

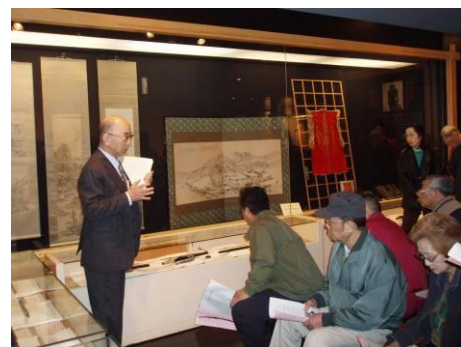
鳥羽さんには初日の展示解説会のほか、「日本刀に纏(まつ)わる言葉・諺(ことわざ)」という題目で講演も賜りました。白老地域文化大学との連携講座でしたが、およそ四十名の聴講生が、ずらりと並んだ短刀やその拵え(こしらえ)に、

感嘆の声を洩らし、日本語と日本刀との関わりの深さに聞き入っていました。

桜の開花の遅れが来館者数に響いたような印象もあります。が、九百七十一名の入館者を数えました。特にGWの最中には、一日で二百人を突破した日もあり、天候が悪かったにしては

沢山の方々にお越しいただきました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。

さて、六月の地域文化大学講座では、来年の三月に予定している「平成二十二年度歴史と文化のまちPR展示事業 白老地域文化大学卒業制作発表会」に向け、中村齋学長に「自分史のすすめ」という内容で講演していただきます。要点や方法論をお話いただく他、今後の作業の進め方などについても講義をお願いしております。難しい試みですが、学生自身による郷土のアピールは、まさに「北海道にある、元気まち」に相応しい姿であり、画期的な試みとなるでしょう。陣屋資料館のスタッフも全力でお手伝い致しますので、学生の皆さんには積極的にお取り組みいただきたいと思っております。



〈鳥羽さんによる展示解説〉

史跡の枝拾いを実施しました

四月三十日、仙台陣屋史跡保存会を中心としたボランティアの方々により、史跡の枝拾いが行われました。冬の間には落ちた枝がなくなって、花見シーズンの到来を前に、史跡の景観がより綺麗になりました。当日は時雨にも見舞われましたが、



〈東屋で少し休憩。お疲れさまです〉

保存会のみなさんのご協力もあって、三時間程で枝拾いを終えました。トラックを三台使用しての作業となり、荷台いっぱいになった枝を何度も捨てに行きました。

史跡保存会の方々には大変お世話になりました。ご多忙の最中に朝からの作業、本当にお疲れ様です。ありがとうございました

ドジョウもフナもいないけど…

沖縄で梅雨入りが発表された一方、史跡では花々が硬い蕾を綻ばせ始めています。陣屋の桜を楽しむにされている方々にも、ようやく朗報をお届けできます。

もちろん桜が咲く前から、春の足音は着実に近づいて来ていました。史跡内を歩いてみると、本陣跡に敷いた砂利の間隙から顔を出したツクシや、落ち葉を押しつけて葉を広げたオウバユリなどを発見できます。虎口（史跡南側入り口）の前に立つコブシの木も、一足早く大輪の白い花を



〈八部咲き。史跡北側から資料館を臨む〉

小学生が陣屋見学。一番の人氣は…

緑丘小学校の三年生と白老小学校の三年生が、陣屋へ見学に訪れてくれました。三好監物とアイヌの長オマナンの着物を触り比べては感触の違いに驚いたり、エゾシカやエゾリスがいるのに“エゾヒグマ”がどうしていないのか首を傾げたり、見慣れない資料を前に好奇心が大爆発。みんな熱心に解説を聞いていました。やはり大砲や火縄銃を前にすると目の色が変わります。

資料館の後は史跡を見学。やや肌寒い陽気に怯むことなく、元氣一杯に走り回っていました。

史跡の草むしりボランティアを募っています

ウグイスが愛を歌い、草花がわれ先にと茂る季節がやってきました。ただ残念ながら、史跡とその環境を守る役割を持つ私たちは、全ての草木に生命を謳歌させる訳にもいきません。

史跡内の草むしりを実施するにあたり、今年も皆さんのお力添えをお願いいたします。特に屋敷跡の間取りを復元した杭とブロックの内側は、草

つけていました。本州が梅雨の湿度で辟易している間こそ、白老では短いながらも美しい春の盛り。ただ野山を散策される際は、十分に気をつけてお楽しみを。

刈の機械も入れないので、丁寧に手で耨るしかありません。六月十九日の実行を予定していますが、関心を持たれた方は、まずは陣屋資料館までお問い合わせ下さい。

社台1遺跡出土の朱塗土器、登別市へ出張中

白老町の文化財にも指定されている朱塗りの縄文土器が「のぼりべつ文化交流館 カント・シラ」で出張展示されています。

縄文海進と呼ばれる、世界的にもっと陸地が狭かった頃、今の社台に住んだ人々の遺跡から出土した大量の資料。ここからは石器や漆器に混ざり、朱色の塗料で惜しげもなく装飾を施した大壺や大皿も発見されました。

これらは「亀ヶ岡文化」という、縄文時代の末期に東北地方北部から北海道西部にかけて広がった文化の特徴を備えています。表面には唐草のような文様が浮き彫りにされており、緩やかな曲線を持つ外形も相俟って、独特の美しさがあります。

「カント・シラ」はアイヌ語で天上の風という意味。登別温泉町の学校を再利用し、市内で出土した資料を公開・保存している埋蔵文化財展示施設です。社台1遺跡出土の朱塗土器も、ここに仲間入りさせて貰っています。近くに立ち寄られた際には、是非とも訪問してみてください。

「仙台陣屋かわら版 第六十四号 平成二十二年六月号」

発行日：平成二十二年五月二十日

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場